

平和への誓い

わたしたちは、信じるできませんでした。

69年前の8月6日、この広島に原子爆弾が落とされ、多くの尊い命が奪われたことを。

5歳だった祖父は、「地獄のような光景が今も目に焼きついている。」と語ってくれました。

広島に育つわたしたちは、広島の被害、悲しみ、そして、強さを学びました。

爆風により、多くの建物がくずれました。

家や家族を失い、ふつうの生活がなくなりました。

その中で、

水道は1日も止まることなく、市内電車は、3日後には再び走りはじめました。

広島は人々の努力によって、町も心も復興したのです。

悲しみや苦しみの中で、生きることへの希望を見つけ、生き抜いた人々に感謝します。

当たり前であることが、平和なのだと気がつきました。

ある語り部の方は言いました。

「小さなことから始めてほしい。」

わたしたちは、もう行動をはじめています。

友達を大切にし、優しく接しています。

家族や被爆体験者から被爆の事実と平和への思いを聞いています。

平和の思いを込めて、毎年千羽鶴を折り、慰霊碑に捧げています。

平和とは何か自分で考え、友達とも意見を交流しています。

平和について考えることで、仲間とつながりました。

わたしたちは、できることから始める勇気をもつことができました。

Welcome to Hiroshima.

みなさんをここ広島で待っています。

平和について、これからについて

共に語り合い、話し合いましょう。

たくさんの違う考えが平和への大きな力となることを信じて。

平成26年（2014年）8月6日

こども代表 広島市立牛田小学校 6年 田村 怜子

広島市立尾長小学校 6年 牟田 悠一郎